

平成 29 年度 食育推進に係る実践報告書

学校名	安芸郡府中町立府中中央小学校		
学校長氏名	埵田 武浩	栄養教諭氏名	山根 直美
職員数	36名	児童・生徒数	628名

1 学校における食育の現状（昨年度からの課題等）

【教科等における食に関する指導について】

- 教科の中で食育の授業を行う場合、食育のねらいと共に各教科のねらいを達成できるような指導の工夫が必要である。また、栄養教諭の専門性を活かせる関わり方についても研修していく必要がある。本校では、担任と連携を図りながら新たな教材の開発に取り組んでいる。

【食事マナーの定着に向けた取組について】

- 食事マナーの定着に向け、全校で取組を進めている。
- 給食委員会が中心となって取組を進めることで、学校全体の意識が高まっている。

2 学校の食育に係る目標（成果指標・目標値）

「チャレンジする児童の育成」（食育の指導の充実を図る）

赤・緑・黄色のグループの食べ物を知り、バランスよく食べようとする児童の割合を70%以上にする。

3 食育の目標に対する具体的な取組

【取組1】（テーマ） 教科等における食に関する指導の充実に向けた取組について

食に関する指導年間計画に基づき、学級担任と栄養教諭の TT による指導を実施



社会科で、水産業が生活に欠かせないものであることを確認し、その中で、自らが学習課題を設定した。



比治山大学の学生に年に数回授業を公開し、その後で、食育の授業づくりについてのポイントを学級担任、管理職から説明した。



安芸郡教育研究会では、本校の特色ある取組の一つ「食事マナー」についての授業を行い、教材開発、家庭との連携について研修を深めた。

【取組2】（テーマ） バランスよく食べるための指導の工夫について

食育参観日で、「バランスのとれた食事」について学習をした。

どうすれば朝ごはんが「はなまる朝ごはん」になるのかをグループで考え、参観した保護者からも意見を発表してもらった。懇談会でも、各クラスでバランスのとれた食事について意見交流を行った。



食育体験活動で、バランスのとれた食事について学習し、学校で学んだことを確認した。



給食委員会が作った、「赤・緑・黄色のグループの歌」を給食時間に流した。

【取組3】(テーマ) 学校・家庭・地域との連携について

- 食育参観日について
食に関する年間指導計画に沿って、各学年の目標に応じた内容の食育授業を参観日に全学年で行った。
- 食事マナーウィークについて
給食委員会の児童が給食時間に各教室を訪問し、食事マナーウィークのテーマに合わせた話をした。委員会の児童は、自分の話す内容をクラスごとに工夫することにより、自信をもって活動することができた。
- 学校行事と地域との連携について
地域に伝わる郷土料理「もぶり飯」についての学習や「おむすび体験学習」など「朝パツ君プラン推進事業」や「府中町公衆衛生推進協議会」と連携を図りながら取組を行った。



JAの方や、地域の方と一緒に、おむすび体験活動をした。



農林水産省主催の「全国和食王選手権」に参加し、それぞれのグループで児童が考えた地域の郷土料理について考えた。

4 「ひろしま給食100万食プロジェクト」の取組について

- 府中町内では、いわしを使った「いわしバーガーサンド」と合わせ、町内統一メニューを実施。
- ひろしま給食メニューを教材として教科等の授業に生かした。(※資料:学級通信)



広島県の地形や気候は、レモンの栽培に適しています。また、それだけではなく、生産者の工夫も欠かせません。どんな工夫があるのでしょうか？

- 給食試食会や親子料理教室で、ひろしま給食メニューを取り上げた。
- 府中町教育委員会や府中町長、町議会議員を招いての給食試食会を実施。



町長さん達も、おいしいと笑顔！



「熱く燃えろ！！Cスープ」にちなんで、校長先生とカープのユニフォームでおもてなし



親子料理教室では、「小松菜のマドレーヌ」にチャレンジ

5 取組に対する成果と課題

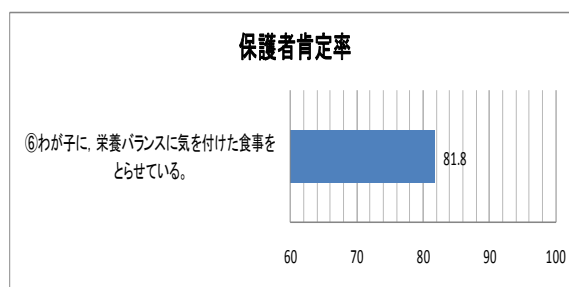
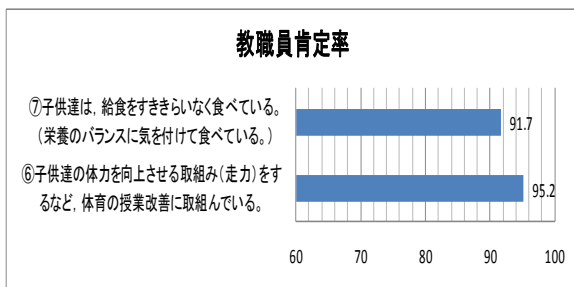
【成果】

教科等における食に関する指導について

- ・授業を公開する機会など研修の場面が多くあり、教科に食育を取り入れるために教材研究の時間を多く取ることができた。そのことから、教職員の食育に対する意識が高まった。また、教科の中での食育の広がりにも可能性を感じることができた。

○ バランスよく食べるための指導の工夫について

- ・食育参観日など、学校での取り組みの中で保護者と一緒に食事内容を考えることで、家庭との連携が図りやすく、保護者、児童お互いにバランスよく食べようという意欲が高まった。
- ・給食委員会で歌を作り、毎日の給食時間に流すことで、毎日食べている食品がどのグループになるのか頭に入りやすかった。そのことで、バランスのとれた食事について効果的に伝えることができた。委員会の児童も主体的に考えて取り組むことができた。そのことが児童が達成感を持つことにもつながった。



- 「給食は、好き嫌いなく(栄養のバランスに気を付けて)食べようとしている。」児童の肯定率は、約93%と概ね良好な状況であった。
- 「わが子に、栄養バランスに気を付けた食事をとらせている。」保護者の肯定率は約81.8%、「子供達は、給食を好き嫌いなく食べている。」教職員の肯定率は約91.7%で、概ね良好であった。しかし、保護者の肯定率は、1学期よりも11.5ポイント下がっている。今後も、各種たより等による保護者への発信と、家庭と連携した取組が必要である。

学校評価アンケート(平成29年度2学期末)より

【課題】

○ 教科等における食に関する指導について

- ・各学年で行った教科等における食に関する指導の内容を校内研修等により、教職員全体で理解を深め、全体の意識を更に高めていく必要がある。

○ バランスよく食べるための指導の工夫について

- ・栄養バランスのとれた食事については、家庭との連携が欠かせない。食事内容は、家庭による差が大きいため、少しでも食事の重要性に意識を傾けることができるよう学校から情報を発信し、学校では、給食時間を中心に苦手なものにもチャレンジできるよう働きかけていきたい。

6 今後の取組に向けた改善方策について

○教科等における食に関する指導について

- ・各学年で行った教科等における食に関する指導の内容を校内研修等により、教職員全体で理解を深める。
- ・食に関する指導年間計画を見直し、学校行事と指導内容を関連付けられ、効果的な指導ができるようにしていきたい。